

業 種	トラック
取組分野	事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用
テ ー マ	ドライバー等の納得感を高める事故等情報の分析・伝達方法
取組の狙い	<p>運転時のルール等に関する情報について、ドライバー等の理解を深め、記憶に定着させることで、事故やトラブルの再発を防ぎたいとの思いから、発生した際に実施する事故等の分析とその対策の検討結果をわかりやすく・タイムリーに伝達する方法を検討し、実践している。</p>
具体的内容	<p>【取組みのキッカケ】</p> <p>事故やトラブル、ヒヤリ・ハット（以下、事故等）が発生した際の原因を概観すると、その多くは“基本動作からの逸脱”であったことから、事故等の分析から対策を策定して周知しているものの、現場では腹落ちしていないのでは？との疑問があった。</p> <p>そのため、会社が現場に期待する基本動作や事故等の再発防止対策などをわかりやすくタイムリーに伝達することで、内容への納得感を高め、徹底を図りたいと考えた。</p> <p>【実施内容】</p> <p>事故等に対する分析結果や対策の検討結果に対して、ドライバー等の理解を深め、記憶や意識に定着させるために、伝達事項を、文章だけでなく、周知内容や現場の状況等を写真や地図、イラストなどを用いて視覚的に表現した上で、事案発生タイミングを捉えてタイムリーに掲示板に掲示して発信している。</p> <p>【ドライバー等に興味を持ってもらうための工夫】</p> <p>(1) 発生状況や傾向に応じてタイムリーに発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 重点施策の運転事故抑止目標達成への意識付け ✓ 事案発生後、同種の事故発生を防止するため、時機を逸すること無く早めの情報発信 ✓ 必要に応じ内容を変えて繰り返し発信 ✓ 再発・対応状況に応じて掲示期限を適宜変更 <p>(2) 読んでもらうための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一枚の用紙に簡潔な構成 ✓ 文章量を抑え、写真やイラストを多くしたレイアウト <p>(3) 伝える上での工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 朝礼や点呼時に店所長や運行管理者が対面で事故トラブル情報を伝える際に、より記憶に残るように、発生背景や予測される事故の可能性・自分ならどうするかを問答するなど掲示していない情報に関してもドライバーに伝達するとともに、各人に配布している安全手帳に内容を書き写させて指導している。

(4) 他の掲示物に埋没しない配慮

- ✓ 掲示場所が雑然とならないよう掲示期限、種別毎の掲示場所を設けて整理して掲示
- ✓ 周知の必要度合いに応じて、目に付きやすい複数の箇所（点呼場・休憩所等）に掲示

【発信する側の工夫】

事故等の原因究明と再発防止策の発信は、自組織で発生した事故やトラブルの情報について記憶に新しく、自分事として認識し注意して運転しようとする意識がある内に、なるべく早く会社が求める手順等を示し、再発防止を図ることが望ましいことから、発行者（安全品質管理部）として、以下の改善（工夫）を実施した。

(1) 原因分析と対策策定作業に係る工夫

(以前)：

- ・ これまでは、事故を起こす原因を惹起者の「注意不足や安全確認の抜け」と認識、事故が発生した際の対策は一辺倒な対策（運転時の意識集中、安全確認の徹底など）が中心であった。

(現在)：

- ・ 安全品質管理部門に複数のリスク管理担当者を設け、部内外の研修等でスキルアップをはかり、力量を向上させている。
- ・ 事故分析手法の習得により、事故の発生に至った環境・要因などの情報収集と深掘りを行い情報発信するとともに、路線店、区域店、3PL店といった様々な業態の店所の背景も考慮して分析・対策を加えて、各店所の管理者にもその結果を提供している。
- ・ 事故発生時に役員に事故内容を携帯メールで速報するとともに、事故に関する意見を求めるなど役員にも関与してもらっている。
- ・ 事故を惹起した店所には、より深い視点での原因分析を行わせ再発防止の徹底を図る為に、収集した事故関連資料を提供して、店所独自の原因分析と対策を提出させている。
- ・ 原因分析の際、過去に発生した同様の事故事例の有無を確認の上、必要に応じて過去の対応事例も参考に周知している。
- ・ 「基本動作の徹底、ルール遵守」は全ての基本であると認識して、内容を変えて都度繰返し発信している。

(2) 発行物の編集作業に係る工夫（なるべく早く行うための工夫）

(以前)： 一人または少数の担当者による作業のため、時間を要していた。

(現在)： 安全品質管理部内の複数の者で作業を担当することにしたため作業時間の短縮に繋がった。

また、各担当者の事故分析能力、編集の力量が向上してきたことから編集作業がスムーズになってきている。

【発信する情報】

- ・ 事故速報： 自社内で発生した各種事故を周知するとともに再発防止を目的とした内容の掲示物
- ・ 安全ニュース：各種事故に対する未然防止の為に取組むべき安全に関するルールなどの理解・遵守と周知を目的とした掲示物
- ・ 安全衛生ニュース：荷扱いでの労災事故防止等を目的として、未然防止の為に遵守すべき事項の周知を行うための掲示物

【発行した安全ニュースの一例】

安全ニュース		2023年 4月17日
NO. 23-3 信州名鉄運輸株式会社 安全品質管理部		
<p>バック手順はこれだ！ 4点の指差呼称で安全確認</p>		
We're Koguma ~for the Best Quality & the Future~		
掲示期限	2023年12月31日	

安全ニュース		2024年 7月12日
NO. 24-08 信州名鉄運輸株式会社 安全品質管理部		
<p>最高速度は何キロ？</p> <p>信州名鉄運輸の大型トラックの最高速度は、法定速度もしくは指定速度と決まっています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">60</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">80</div> </div> <p>法定速度とは・・・速度指定されていない一般道での最高速度は、60km/h 高速道路では80km/hです。</p> <p>指定速度とは・・・一般道、高速道ともに標識等により最高速度が示されている速度</p> <p>大型トラックの高速道路での最高速度が90km/hに引き上げられたため、すべての高速道路で90km/hまで出せると勘違いしているドライバーがいます。</p> <p>高速道路で一部最高速度の指定が90km/hを超える区間がありますが、この場合に限って大型トラックの最高速度が90km/hとなります。</p> <p>※ 信州名鉄の中型、小型のトラックの高速道路上の最高速度は、大型トラックと同じ扱いとなります。 また、トレーラーは従来通り80km/hです。</p> <p style="background-color: green; color: white; text-align: center;">速度を守って安全運転・事故防止</p>		
掲示期限	2024年9月30日	

取組の効果

【効果】

(1) 発生状況や傾向に応じたタイムリーな情報発信

- ✓ 事故等が発生した際にドライバーに対して特に伝えたいことなどを見やすく記載することで、次回の研修等の開催時期を待たずに安全運転を周知・伝達する手段としても機能している。
- ✓ ドライバーだけでなく、他の従業員も関心や興味を持って読んでおり、社全体が信州名鉄運輸のプロ・トラックドライバーとして、他社のお手本となるべく「安全運転」「法令・規則や社内ルールの遵守」を理解して実践するための有効な手段の一つとなっている。
- ✓ 会社の関心事・問題意識、現場での課題を認識し、共有する機会となっている。

(2) 取組みの効果

- ✓ 安全ニュース、事故速報やヒヤリ・ハット情報などは店所で実施す

	<p>る安全対策会議などの議事資料としても活用されていて、ドライバーの安全意識の高揚に役立っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 身内（社内）で起きた事故事例は、自分事として再発防止を考える上での良い参考例（教訓）となっている。 ✓ 掲示物を見たドライバー同士の意見交換、自身の対応方法や感想を管理者にフィードバックする者もいることから、掲示物を通じた安全上のコミュニケーションが図られている。 <p>(3) 更に伝わり定着させるための今後の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ これまでのとおり情報伝達をタイムリーに行うことに加えて、現場に伝わりやすい文面や言い回しについては、生成A Iの利用を試みている。 ✓ 導入している点呼ロボットの拡張機能を活用して、安全ニュース等の伝達と理解把握をロボットで行うことも計画している。 ✓ 電子表示媒体の高注目度に着目して、掲示板への掲示に加えてデジタルサイネージ等のディスプレイを導入して、画像やドライブレコーダの動画等を放映することも検討している。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事案に対する関心が高いうちに、“同じことはあなたにも起こり得る”ことを伝える工夫と自身の安全運転に積極的に活用してもらうために、この手法を継続していきたい。 ✓ 事故等を分析する際、分析の視点が惹起者の一人称に偏りがちになるため、リスク管理手法の継続的な学習によって 4M4E などの多視点で分析を実施し、多角的な対策検討を行うことで、会社と惹起者双方で可能な限り安全の阻害要因を排除していきたい。 ✓ 一方で、事故発生の根本原因は「やってはいけないと認識していた・ルールは知ってはいた」ものの、結果的に安全の基本ルールを軽視したことによるものが大部分との分析結果が得られていることから、今後とも全従業員が、事例を自分自身に置き換え確実に「基本動作を徹底し、ルールを守れる」安全管理体制を根気よく継続していきたい。
事業者名	<p>信州名鉄運輸株式会社 安全品質管理部 (連絡先：0263-40-1725)</p>